

事業番号 1 : 環境調和型バイオマス資源活用モデル事業 (国土交通省連携事業)

評価者のコメント (コメントシートに記載されたコメント)

【課題・問題点等】

事業の目的、実施方法について

CO₂削減と地下水汚染対策と2つの目的があり、それらの関係が整理されていない。

CO₂削減と地下水汚染の処理のどちらを優先するかによって、予算の使い方が変わってくるのではないかと。

国交省との連携事業のため下水処理場の利用ありきになっている。液肥の処理であれば他の手段を採用しても良いのでは。

実質的に農水省の事業と重複しているのではないかと。CO₂削減も十分見込めない。

事業のコストについて

バイオマスを再利用する技術と地下水汚染防止を図る手法を確立することは重要であるが、本事業ではCO₂削減コストが高額すぎる。

CO₂削減コストの試算における前提条件が不明確。

実績値に基づき算出している直接効果だけでも詳細な情報を開示すべき。

実証の結果に基づいて試算はすべきで、規模の拡大や既存施設の利用可能性などの未確定要素で試算を行うべきではない。

各事業主体の費用対効果は分けて提示すべき。

【改善の手法や見直しの方向性】

事業の目的、実施方法について

本事業がメタンガス発電施設の普及の阻害要因である地下水汚染の対策を主目的とするものであることを明確にすべきではないかと。さらには、メタンガス発電によりCO₂削減にも寄与するという、コベネの要素があるのではないかと。

本事業が地下水汚染対策にどの程度寄与するのか詳細に検討し、定量的に示す必要がある。

メタンガス発電施設の普及実態を調査し、ボトルネックが本当に液肥の処理にあるのか要検証。

農業集落排水処理施設など他の下水処理施設も含めて日本全体としての普及展開に向けたビジョンが描けるようにすべき。

事業のコストについて

事前にハードルレート（事業採択基準）を設定すべきではないか。

施設の規模拡大や場所の選定によってはコスト削減を図ることが可能であるということであるので、十分な効果測定をして、どの程度の規模や場所を選定すればよいかを明らかにすべき。

評価結果

事業内容の一部改善

（廃止：1人、事業全体の抜本的改善：1人、事業内容の一部改善：4人）

とりまとめコメント

- ・ 本事業の目的が、CO2削減なのか、地下水汚染の防止なのかわかりにくい
ため、明確にすべき。
- ・ その上で、本事業の効果測定を行い、今後の事業展開にどうつながるのか
を検証すべき。